福岡県古賀市（国内 54 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和５年１月３日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

１　農場の周辺環境・農場概況

① 当該農場は緩やかな丘陵地の谷間にある川沿いに位置し、周囲はミカン畑、人家、防風林や竹林に囲まれていた。

② 農場の南側と北側に里道があり、南側里道横には小川がある。約 500m 上流に貯水池があるがカモ類は確認されなかった。なお、農場周囲１km内に複数の池がある。

③ 当該農場は上舎、中舎、下舎の３区画に分かれたエミュー飼養農場であり、このうち発生鳥舎は上舎と中舎に位置していた。鳥舎は休耕田に足場部材等を利用して枠場が作られており、側面部には単管パイプと約５cm 角のフェンスで壁を構成し、その外側の側面には目合約２cm の亀甲ネット、天井部には３cm 角のネットが設置されていた。各鳥舎通路の天井部に部分的に放牧場へ張り出す形で屋根が設置されており、その下部に餌樋と水桶を設置していた。中舎から下舎で入り口までは、合板で仕切られたエミュー用の道が設置されていた。

④ 人用通路は足場とその上部に足場板を設置し、従業員は下舎出入口から中舎、上舎に内部通路のみを徒歩で行き来できる構造となっていた。通路の出入口や通路上の一定区画ごとには扉があり、常時施錠されていた。

２　通報までの経緯

① 飼養管理者によると、当該農場では平時死亡個体が認められることはないが、１月１日に上舎にて 11 羽が死亡しており、翌２日にも上舎及び中舎内で 15 羽の死亡が認められたため、家畜保健衛生所に連絡したとのこと。２日には緑色下痢及び食欲のやや低下が認められたとのこと。

② 調査時、上舎及び中舎では死亡個体が散在しており、神経症状が疑われる虚弱個体も見られた。

３　管理者及び従業員

① 当該農場の飼養管理は、飼養管理者１名及び従業員１名が担当しているが、通常は従業員１名のみが農場で作業をしていた。

② 鳥舎ごとの飼養管理の担当分けはしておらず、従業員は下舎の出入口から中舎、上舎は内部通路を使って往来して管理していた。

③ 従業員は孵化場のある本社へは出勤せず、直接当該農場へ出勤し、飼養管理を行っていた。エミューの雛の導入や、成鳥の出荷の際は、本社の従業員が応援に来ていた。孵化場は専任の従業員が管理し、当該農場とは作業者が完全に別であった。

４　農場の飼養衛生管理

① 飼養管理者によると、従業員は当該農場へ出勤の際には動力噴霧器等による車両消毒

等は実施しておらず、農場入口の消石灰帯を通過後、農場下舎入口近くに車を止めていたとのこと。また、農場への入退場時に、農場内専用作業着及び長靴への交換、手指消毒を実施していたとのこと。

② 農場入口にはチェーンと錠で出入りが制限されており立入禁止看板を設置し、衛生管理区域が明確に区分されていた。また、従業員以外に農場に出入りした実績はなかった。

③ 下舎及び上舎入口内側には、踏込み消石灰槽が設置されており、鳥舎用長靴が置かれていた。鳥舎への入場時は専用作業着を着用し、専用長靴に履き替え、手指消毒を実施していたとのこと。各鳥舎入口に設置の水槽と消石灰槽を踏み込んでから各舎に入っていたとのこと。

⑦ 各区画内には更に枠があり、枠ごとに同一年齢のエミューを飼養していた。

⑧ エミューの繁殖期は 11 月から３月であり、当該農場で産卵した種卵は通常、場内で保管後、一定量がたまったら孵化場に搬出し、孵化場では、種卵を密閉できる貯卵庫で保管後、定期的に孵化機に入れていた。直近の孵化場への卵の搬出は 11 月 30 日とのこと。孵化後は一定期間孵化場で育雛しており、直近の孵化場から当該農場への雛の導入は令和４年５月とのこと。また、直近の当該農場からの生体の出荷は同８月であったとのこと。

⑨ 給与飼料は、購入業者から本社の資材置場に搬入され、そこで調整混合していた。飼料の搬入は、当該農場の従業員が午前中の飼養管理後に、車で当該農場の飼料倉庫（スチール製物置、施錠可能）に毎日搬入していた。飼料倉庫は施錠管理しているため、飼料倉庫への野鳥等の侵入や飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。

⑩ 飼養エミューへの給与水は農場南側里道横の川水を用いており、消毒は実施していなかったとのこと。

⑪ 鳥舎内の地面は土で敷料は使用されていなかった。定期的に土を搬入していたが、土や糞を農場外へ搬出したことはないとのこと。

５　野鳥・野生動物対策

① 飼養管理者によると、当該農場の鳥舎周辺でカラス、スズメ、シカを見かけることがあったとのこと。また、農場周辺にはミカン畑や清掃工場があり、カラスやスズメが多数生息しているとのこと。

② 飼養管理者によると、鳥舎内でネズミを見かけることはないため、殺鼠剤などの設置はしていないとのこと。

③調査時、発生鳥舎近くでハシブトガラスやスズメを多数確認した。また、農場周辺及び農場内の通路でハシブトガラスの死体を３羽、農場近隣で虚弱個体２羽を確認した。

⑤ 各鳥舎の天井部には目合約 30mmの防鳥ネットが設置されていたが、上舎及び中舎では一部が破損しており、そこから鳥舎内にスズメ等が侵入していた。

（以上）